

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	古見豪基	学校名	埼玉県和光市立第四小学校
実施学年	5年生（和光市立第五小学校）	教科	道徳科
单元名	「自由に生きるとは 教材「うばわれた自由」		

《学びを深めたいポイント》

本実践のねらいは以下の通りである。「自由とは、自己の欲望のままに行動することではなく、他の人の自由と両立するものでなければならないということが分かり、周囲の人のことを考慮し、結果や未来のことを熟慮した自由を大切にしようとする心情を育てる。」以上のようなねらいを達成するために、子どもたちが持つ自由の価値観を1時間の授業を通してだけでなく、連続した学びの中で育てていきたいと考えた。そこで大主題を設定し各教科等の見方・考え方を融合させながら学習を進めていく教科融合型の大主題学習を提案したい。その中で、デジタルとアナログの部分をマネジメントしながら子供たちの学習における主体性を磨いていく学習システムを紹介させていただく。

実際の授業では、以下の図①のようにカリキュラムデザインをおこなった。大きな学習の流れとしては、自由に対する見方・考え方を宿題などで自らの価値観を見つめ直す反転学習を行う。そして、その価値観をもとに、自由な空間の中で、問いを創りながら対話を行うことで自己の見方・考え方を多面的に広げていく。また、子どもたちだけで対話した価値観をもとに、教材「うばわれた自由」でテーマをさらに深く追求していく。つまり、多角的にねらいにせまることが大切である。その中で、ICTを使いながら学びを生かして、さらに深い学びへと迫っていく。最後に、学びのリフレクションを行うことで価値観の再構成を行い価値の自覚化を図ることである。

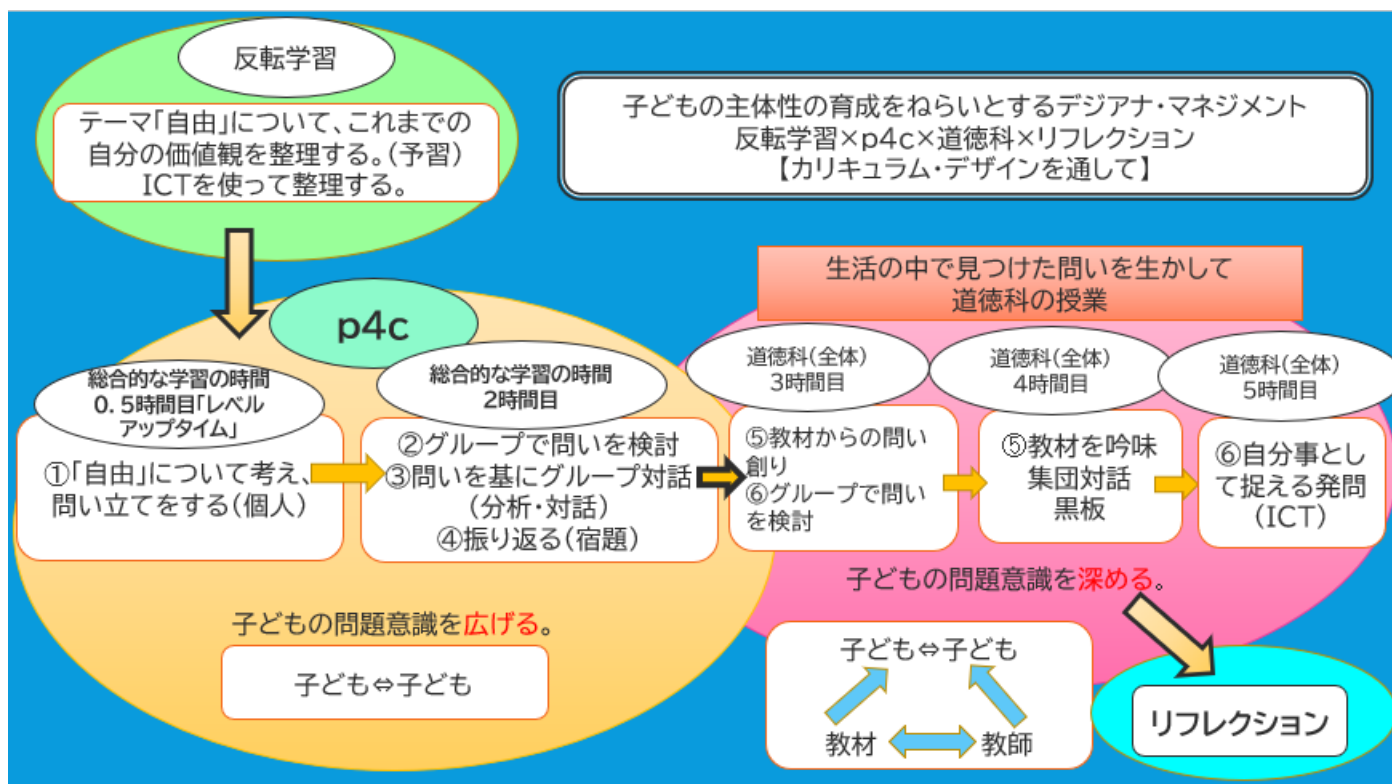
以上のような活動を通して、ねらいにせまるとともに「自分の願いやねらいに応じて」デジタルとアナログを賢く使い分けて行く自律的な活用能力（デジアナ・マネジメント）の育成をしていくことをねらいとしている。

《SKYMENU 活用のポイント》

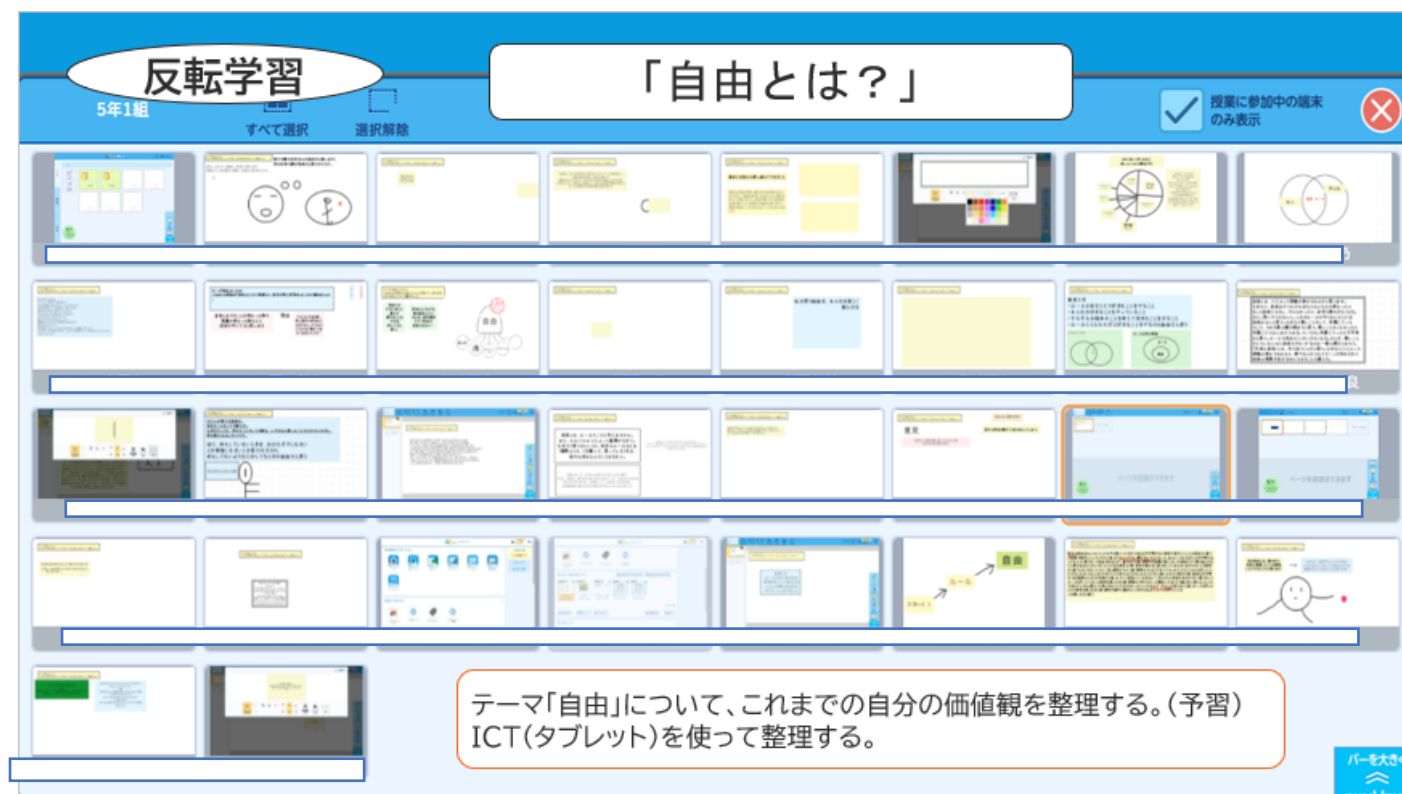
本実践での SKYMENU 活用のポイントは3点である、一つ目は、反転学習により自由に対する自己の価値観を表現するのに発表ノートを使って表現をさせて、共有することで自己の学びに広がりを持たせることができたこと（図②）。二つ目は、対話によって教材を通した学びをさらに、自分事としてとらえさせるためにポジショニングを使い、交流することで自己の学びに深まりをもたせることができたことである。（図③）三つ目は、リフレクション活動である。子供たちは、板書をカメラで撮影したものをもとに道徳ノートにふりかえるとともに、ポジショニングをみて友達の意見を比較しながら考えることでさらに学びを深化させることができる。（図④）

以上のようにデジタルとアナログを効果的にマネジメントしていくことで子どもの主体性は育成されるのであると考えられる。

図①：子どもの主体性の育成をねらいとするデジアナ・マネジメント



図②—1：発表ノートで反転学習を行う。(デジタル)



図②-2:発表ノートで反転学習を行う。(デジタル)

総合的な学習の時間

p4c

「自由とは？」

p4cの対話のリフレクション
(発表ノート)で共有

テーマ「自由」について
これまでの学習の「自由」について対話して、自分が考
える「自由」について書きましょう。

自由とは
やるべきこと
誰かが
得することを
すれば
手に入ると
思う。

好きなようにする
事も自由だけど
それは、自分勝手
だから本当の
自由ではない！

自由

得

優先順位

やるべき事

誰かのため
の思い

ルール

テーマ「自由」について
これまでの学習の「自由」について対話して、自分が考える「自由」について書きましょう。

自由とは、人によって価値が変わるものだと思います。
なぜなら、自由はやらなければならないものが終わったら
もっと自由になるし、やらなかったら、出来る事も少なくなる。
から。思いやりのないし、しかもルールを守らないひとには
自由はないと思う。なぜなら悪いことをして、牢屋に入っ
たりして、できる事の幅が狭まると思う。悪いことをしなかったら
牢屋に入らないはずである。そこでもし牢屋に入ったら不平等
だと思う。ルールを決めた人がいけなくなる。ひとが、悪いこと
をしていないのに自由を少なくするのは一番の罪だとも思う。
「本当の自由」とは、支え合うことだと思う。なぜなら人によって
価値が変わるものなら、様々なじゆうのパターンを知れるから
自由の視野が広がるからできることも増える。

罰が必要

超不平等!!!

自由とは

・ルールがあるうえで好きなことをやること
・みんなが好きなことをやっていること
・それぞれが相手のことを考えて好きなことをすること
・ルールにとらわれずに好きなことをやるのも自由だと思う

とらわれている自由

ルールの中の自由

図③-1:ICT を活用して自分事として考えさせる。(デジタル)

道徳科の授業②

ICTを活用して考える

「うばわれた自由」を通して自由について考える。

展開

自分事として考える（発問）活動

きまりを守る

きまりを守らない

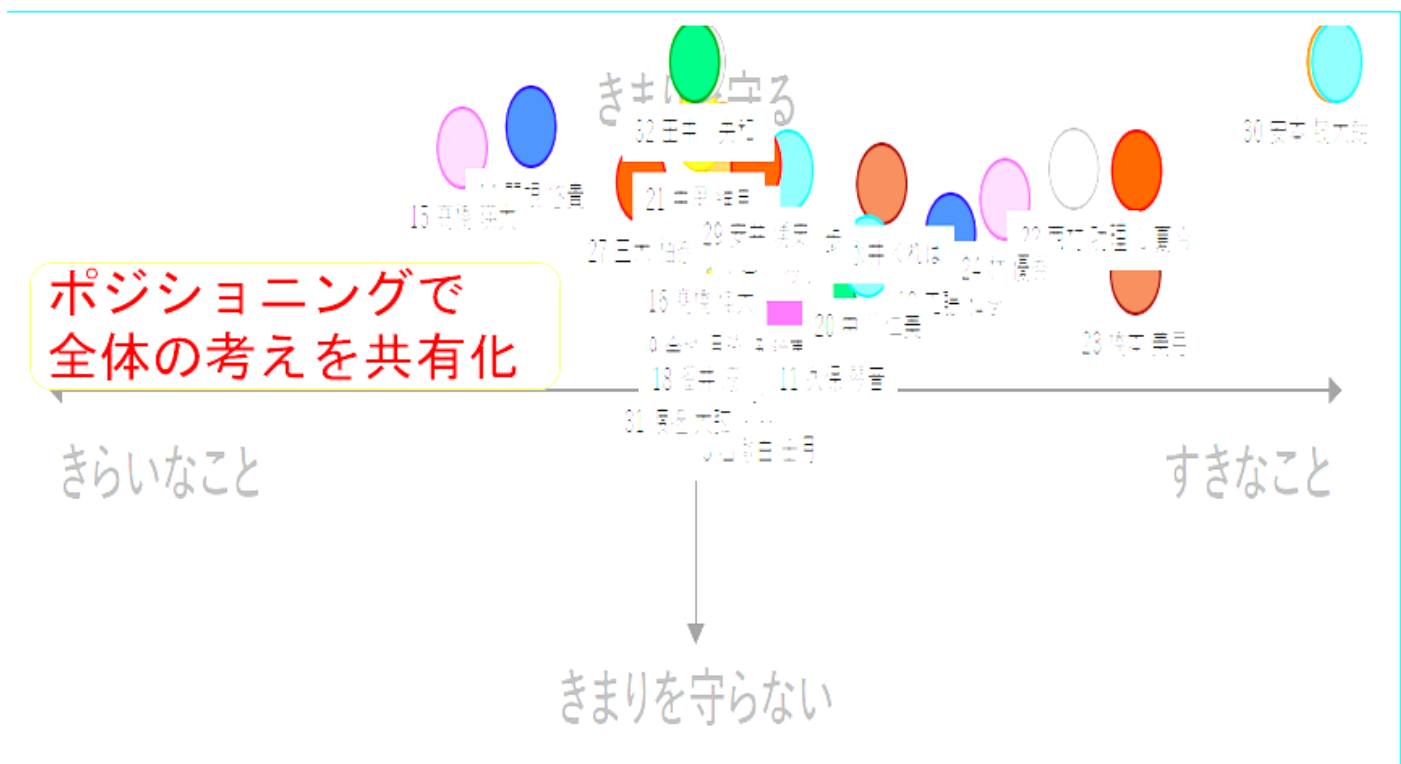
きらいなこと

すきなこと

図③-2:ICT を活用して自分事として考えさせる。(デジタル)



図③-3:ICT を活用して自分事として考えさせる。(デジタル)



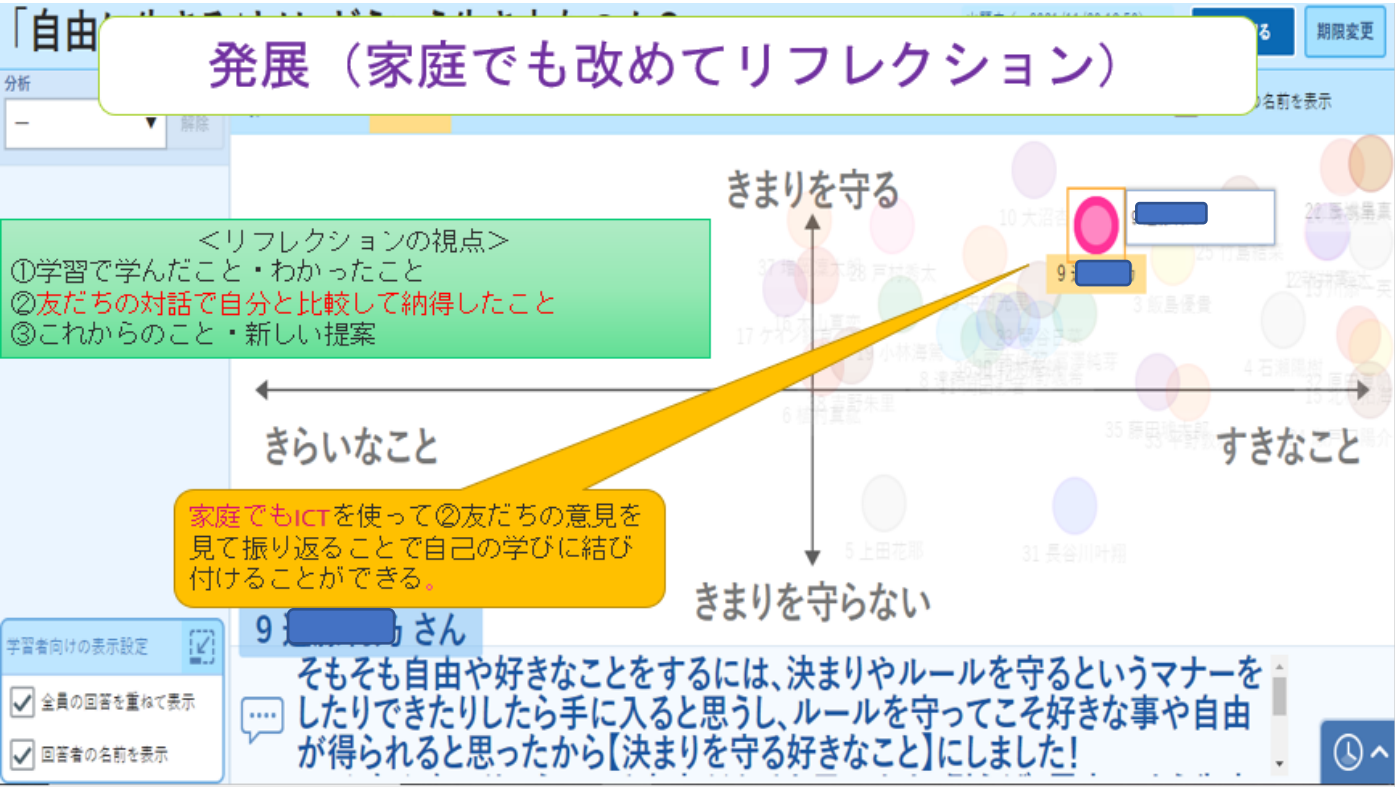
図③-4:ICT を活用して自分事として考えさせる。(デジタル)



図④—1:ICT を使ってリフレクション(デジタル&アナログ)



図④—2:ICT を使ってリフレクション(デジタル)

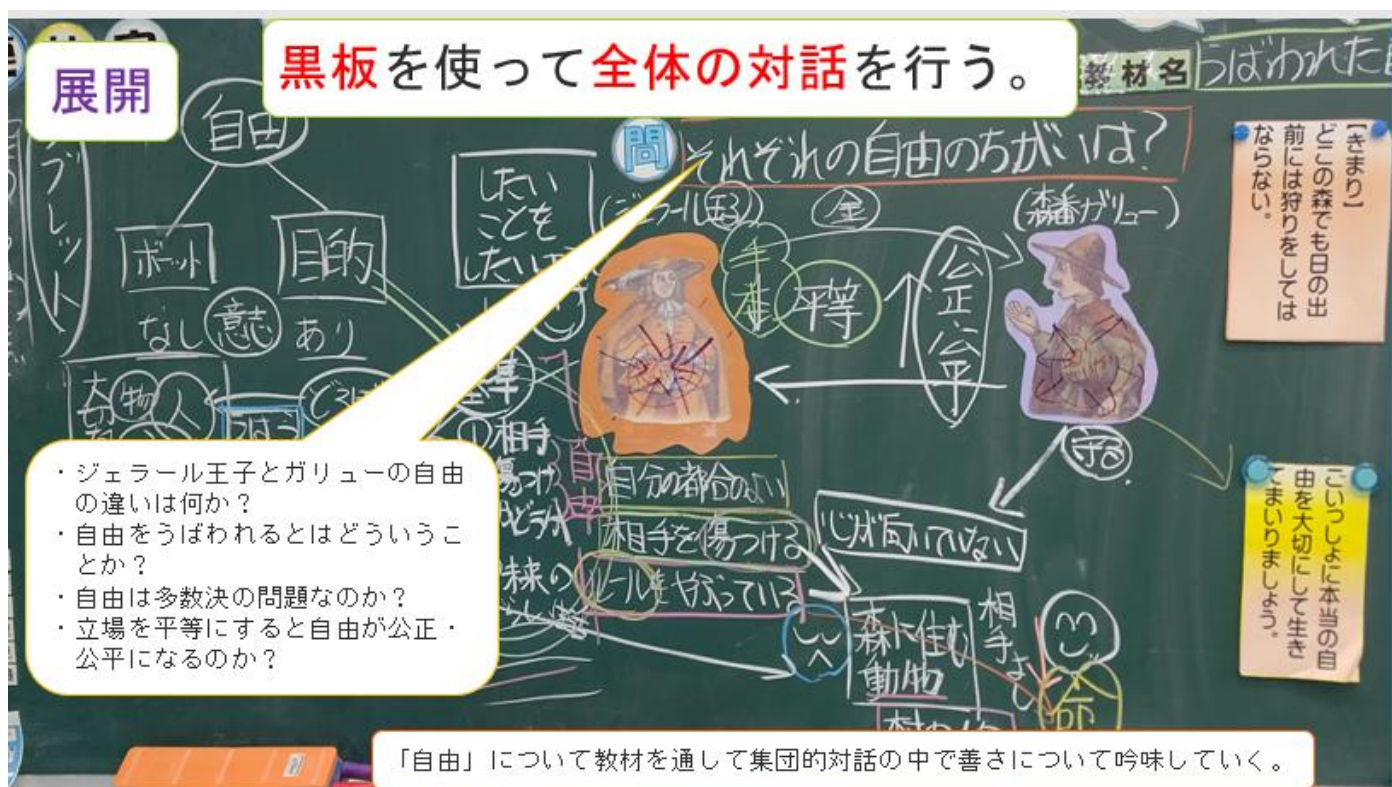


《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	1 問題意識を高め、持続的な学習につなげる。 ・もっと自由だといいなと思うことはどんなことですか。	・反転学習で学習してきたものを友達との共有画面を比較しながらテーマ「自由」についての問いをもつ。	・共有画面で自分の考えを友達の考えと比較して考えられるようにしたい。
展開	2 教材をもとに考える テーマ:「自由に生きる」ために大切なことは？ ①ジェラルール王子とガリユの自由の違いは何か？ ☆アナログ(対話)を重視 黒板を見ながら対話する。 (図⑤) ②「自由に生きる」には何が大切なのか？ ・ICT を利用して二軸四象限(きまりを守る・守らない・好き・嫌い)を通して、自分事として思考できるように問い返していくことでねらいとする道徳的価値観を深めて	(1)ポジショニングを行う。 (2)ポジショニングをもとに、自分と考えの違う人に尋ね歩きをして質問しながら交流することで自分の考えを多面的・多角的に深めていく。 (図⑥)	・ポジショニングする際には、しっかりと自分の選択・判断した根拠を記述するようにしたい。 ・友達の意見から自分の考えを見つめ直して考えがどのように変容したのかを意識させたい。

	いく。	(3) グループから全体へと黒板を使って情報の共有化を図ることさらに考えを深めていく。(図⑦)	
終 末 ・ 発 展	3 本時の学習をふりかえる。 ・今日の学習から新しく思った疑問や課題をとらえる。	ポジショニングの自分のこれまでの考えの軌跡を見ながら自分の考えの変容をとらえながら自己を見つめられるようにしたい。(図⑧)	板書と ICT を連動させて自己の学びをさらに深められるようにしていった。

図⑤：黒板を使って全体の対話を行う。(アナログ)



図⑥：ICT を使って意見交流を図る。(デジタル&アナログ)



図⑦:全体での対話でさらに価値観を深める。(アナログ)



図⑧:終末でさらに自分の学びの軌跡をたどりながらリフレクション!

終末

思考の変化の軌跡がわかり後で問うことができる。

約束を守る

望んでいない(嫌い)

望んでいる(好き)

自分の夢を追い続ける

個人的な質問も考えて記入しておく。

9月...さん

私は、望んでいないの夢を追いかけるにしました。
なぜなら、約束したと考えると男の子の方【約束した】に行くけどやっぱり今までがんだって来たし、努力してきたから自分の夢にしました。

12/16 11:58

12/16 12:26

《実践を振り返って》

道徳科で一番大切にしたい活動は「対話」である。道徳科のねらいを達成するために、友達との対話、教師との対話、教材との対話、そして自分自身との対話（自己内対話）がポイントとなる。今回学習で採用したポジショニングは、子ども一人一人の意見や考えが確実に共有され、整理しながら学びが展開されるために、自分の考えと友達の考えを比較しながら吟味することができる。また、学校という空間だけではなく、家庭に帰っても、友達の考えを共有することができ、家族とさらに対話しながら学びを深め発展することができる。このような個人から集団への対話の広がりが、子どもたちの探究意欲を駆り立て、「学んだことをやってみいたい!」「やってみてさらに道徳の授業で話し合いたい!」と学びが再構成されていくことができた。今後も、子どもたちの実践意欲を高めていくために、デジタルとアナログの善さをマネジメントすることで子どもたちさらに学びを創造していきたい。